

認定第2号

平成23年度

常総市一般会計歳入歳出

決算認定について

平成23年度一般会計決算は、259億4275万9577円の収入済額に対し、支出済額は、243億3185万4269円。差引残額16億90万5308円から繰越明許費4億2982万9000円を引いた11億8107万6308円を平成24年度に繰り越しました。

認定第3号から9号

特別会計歳入歳出

決算認定について

特別会計は、一般会計と切り離して、特定の事業ごとに運営する独立した会計です。内訳は別表のとおりです。

認定第10号

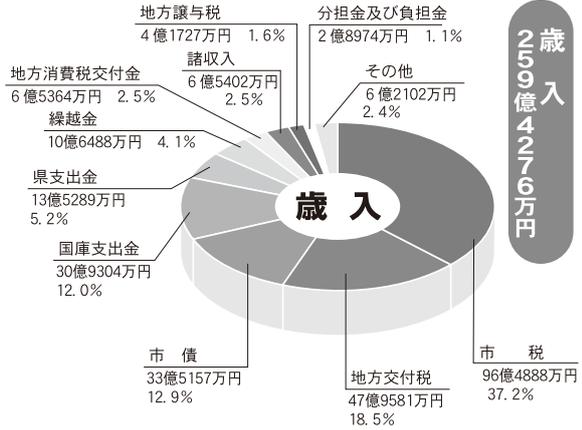
水道事業会計

歳入歳出決算認定について

水道会計は、地方公営企業法の適用を受ける企業会計です。その年度の損益を明らかにするための「収益的収支」と、施設の整備などに充てる「資本的収支」の2つに分かれています。

平成23年度 常総市の決算

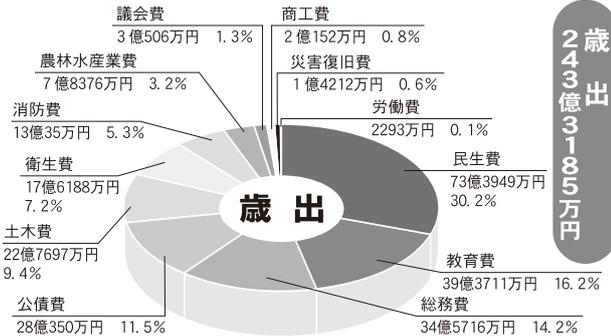
歳入 259億4276万円



(別表) 水道事業合計

Table showing the summary of water utility operations. It details revenue and expenditure for both revenue and capital accounts across different districts.

歳出 243億3185万円



(別表) 特別会計

Table showing the breakdown of special accounts. It lists various accounts like National Health Insurance and Public Sewerage, along with their respective revenue and expenditure.

一般質問

14名通告順

胃がん対策としてのピロリ菌検査について

中島 亨一 議員

質問

ピロリ菌は人間の胃に対して悪さをする菌で、胃がんになる確率が高くなり高く、胃がんになった方の胃を検査すると大体ピロリ菌が見つかる。そのため、ピロリ菌の除菌をしなければならぬ。多くの方はバリウムを飲んでX線のカメラで胃の内容を見ていますが、これは胃がんになった人を見つかる検査である。今回執行部にお願しているのは、ABCリスク検査といい、胃がんになる前に胃の中がどうなっているのか、萎縮性の胃炎が起きていないかどうかの検査を行う。萎縮性の胃炎が発見された場合には、胃潰瘍、胃がんと進展していく可能性が高く、それを防ぐため胃カメラや内視鏡を使って胃壁をしっかりと検査することで胃がんが早期に見えてくる。できれば萎縮性胃炎の段階でしっかりと除菌をして、胃がんにならないようにする。子宮頸がんもそうだが、肺炎球菌の予防接種にしても、ならないようにすることが大

切で、なってしまうてからでは遅く、なる前に予防を行っていくためのワクチンである。ピロリ菌の除菌検査も、なってしまうてからの対症療法ではなく、なる前にしっかりと除菌を行う、またはリスク検査を行って胃がんにならなっている人たちに早く治療するための方法を明示することが大切だと考える。そういう点から、胃がん対策としてのピロリ菌検査に対して市独自の補助制度を設けていただき、多くの方が胃がんにならなないように、しっかりととした補助制度を考えていただきたい。

茨城県ではまだこのピロリ菌ABCリスク検査に対する補助をもらっている自治体は無いが、群馬県などはしっかりと進んでいる。茨城県内においても、いち早く常総市が市民の健康を守る、命を守るという観点から、ぜひABCリスク検査、また除菌対策費用の補助をしていただくことを切に要望する。

答弁 (保健福祉部長)